

中長期モビリティビジョン

一般社団法人 日本自動車工業会
中長期モビリティビジョン検討会

これまでのモビリティ

モビリティは人々の暮らしに「感動」を届けてきた



より遠くへ...



より楽しく...



より早く...



より快適に...

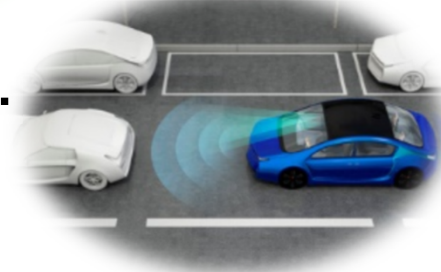


より便利に...

より安全に...



よりクリーンに...



移動を取り巻く環境変化

今、改めて将来のモビリティを考えるべき時にあるのでは

高齢化



Eコマース



都市化



ビッグデータ



気候変動



IoT



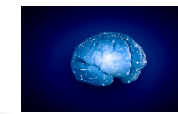
エネルギー問題



移動を取り巻く環境は
大きな変わり目に

社会が変曲点を迎える中、
新たな技術、サービスが出現

AI

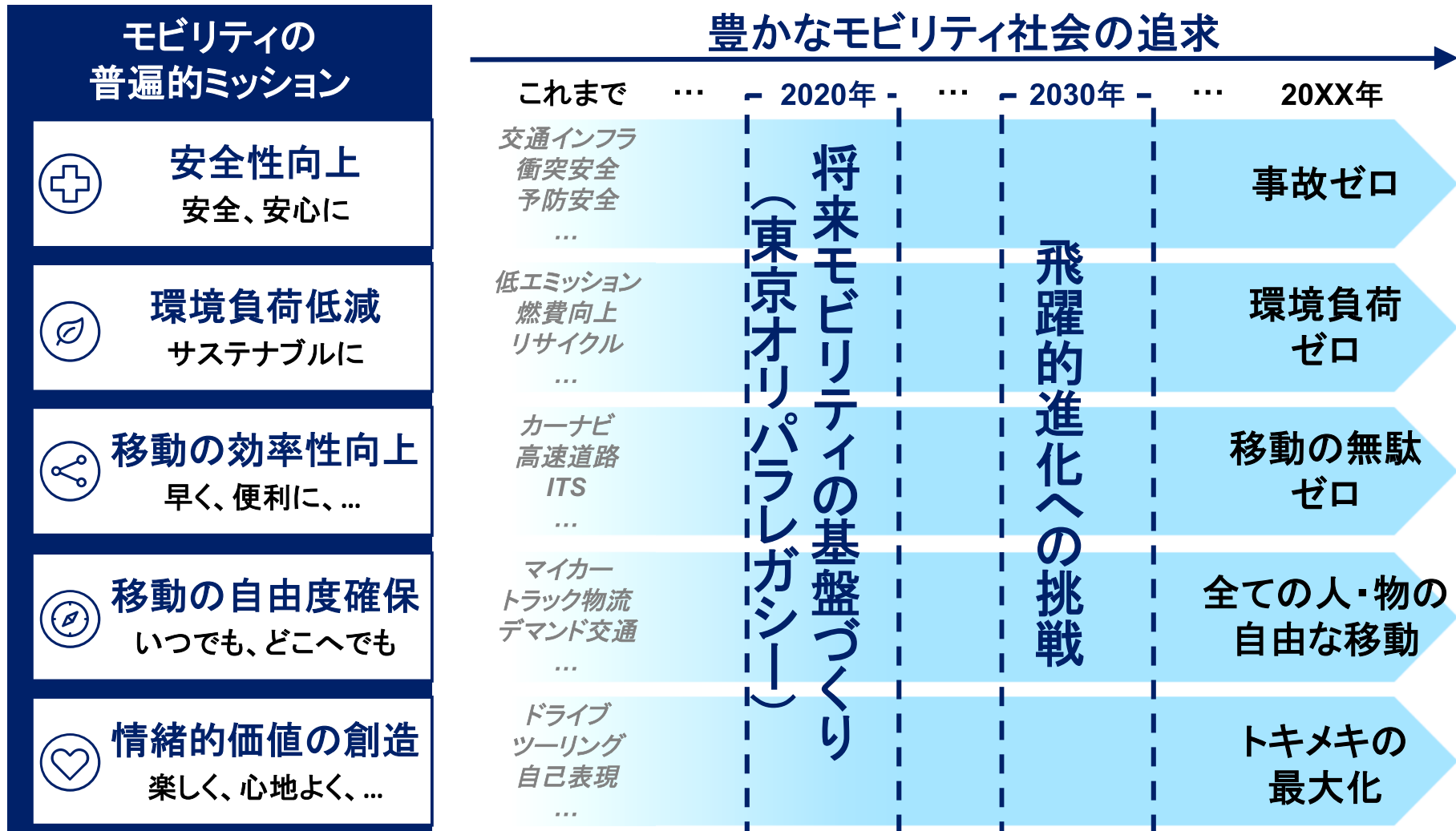


⋮

⋮

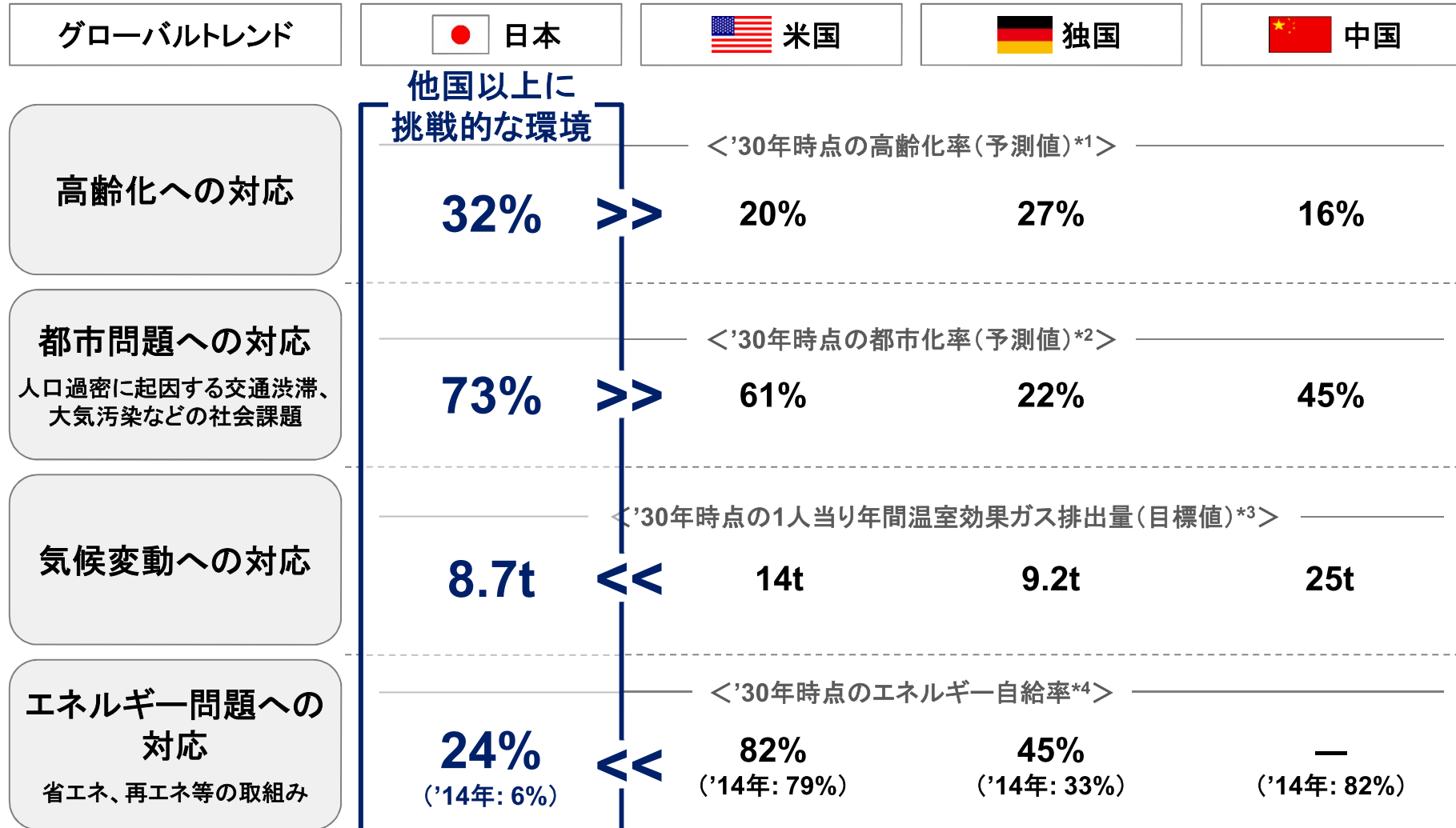
日本の自動車工業界の取組み姿勢

我々はモビリティ進化を通じ、人々の暮らしに「感動」を届け続ける



グローバルメガトレンドを先取りする日本

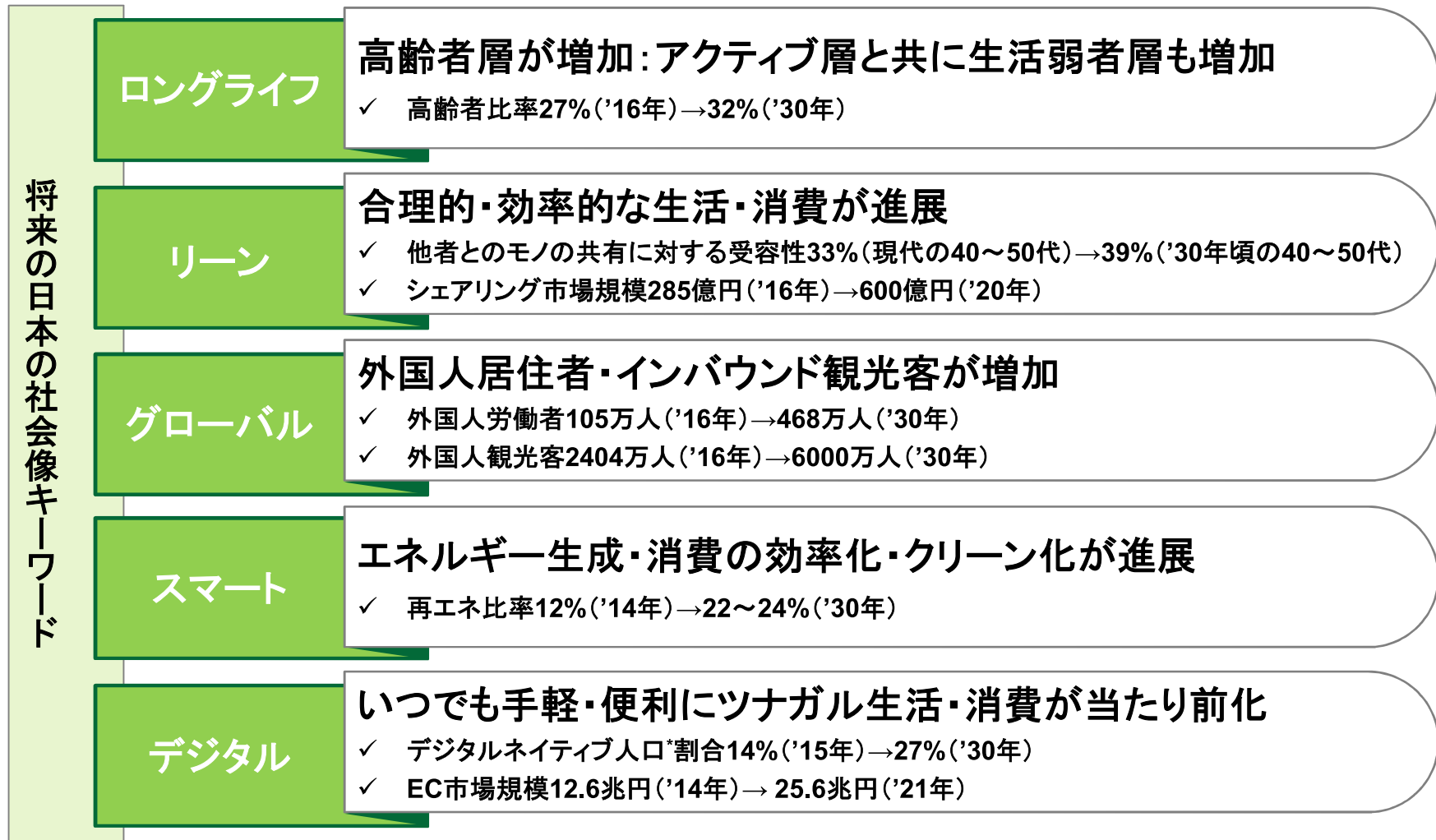
「課題先進国」日本で創る将来モビリティは世界の課題解決へ貢献



*1: 全人口に占める65歳以上の人口の割合 *2: 国連「World Urbanization Prospects 2014」における人口30万人以上都市を都市として定義
*3: パリ協定における2030年の各国温室効果ガス排出量の目標値(米国は2025年目標値より年率換算)をEIUによる2030年の各国推定人口で除した値
*4: 日本の値は2030年政府目標値、米国の値はEIA(米国エネルギー省)の予測値、独国の値は2050年政府目標値を基にした予測値

将来の日本の社会像

日本の社会の価値観・ライフスタイルの変化は益々進んでいく



*:日本で携帯電話のインターネット接続サービスが開始された1999年以降に生まれた人口と設定

将来の日本の国土構造と交通体系

日本は地域毎に発展の仕方が異なり、交通体系も異なる

大都市圏域

■ メガシティとしての集中化・発展

- グローバル都市間競争の主体としての更なる発展を志向
- 多様な交通手段が併存するマルチモーダル社会

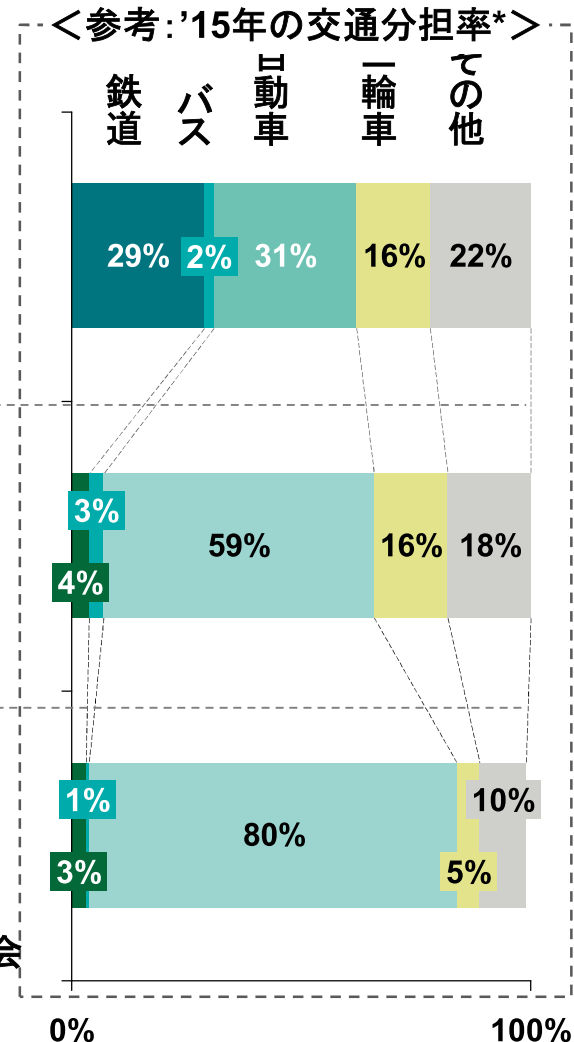
地方圏域

■ 都市機能の集約化が進展する中心部

- 人口減少・財政悪化が進展する中、行政サービス効率化のために都市機能の集約化が進展
- 公共交通も一定整備されたクルマ中心社会

■ 分散的に存続する町村部

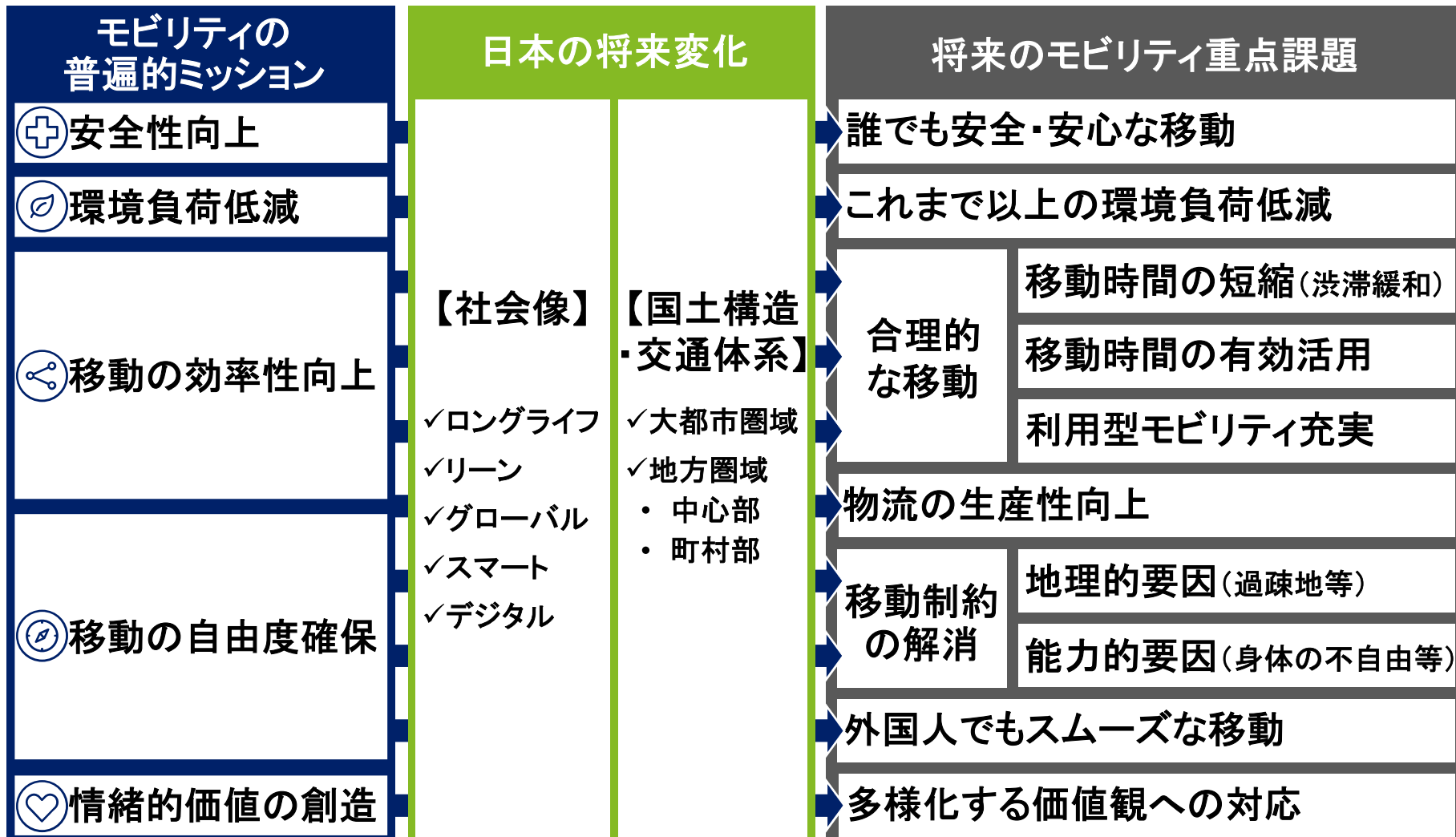
- 集約化する中心部の周縁に、引き続き低人口密度エリアが存続
- 交通手段の選択肢が極めて限定的なクルマ中心社会



*: 国土交通省「全国都市交通特性調査」における調査対象都市類型の三大都市圏を大都市圏域、地方都市圏から中山間地域を除いたものを地方圏域中心部、中山間地域を町村部として区分

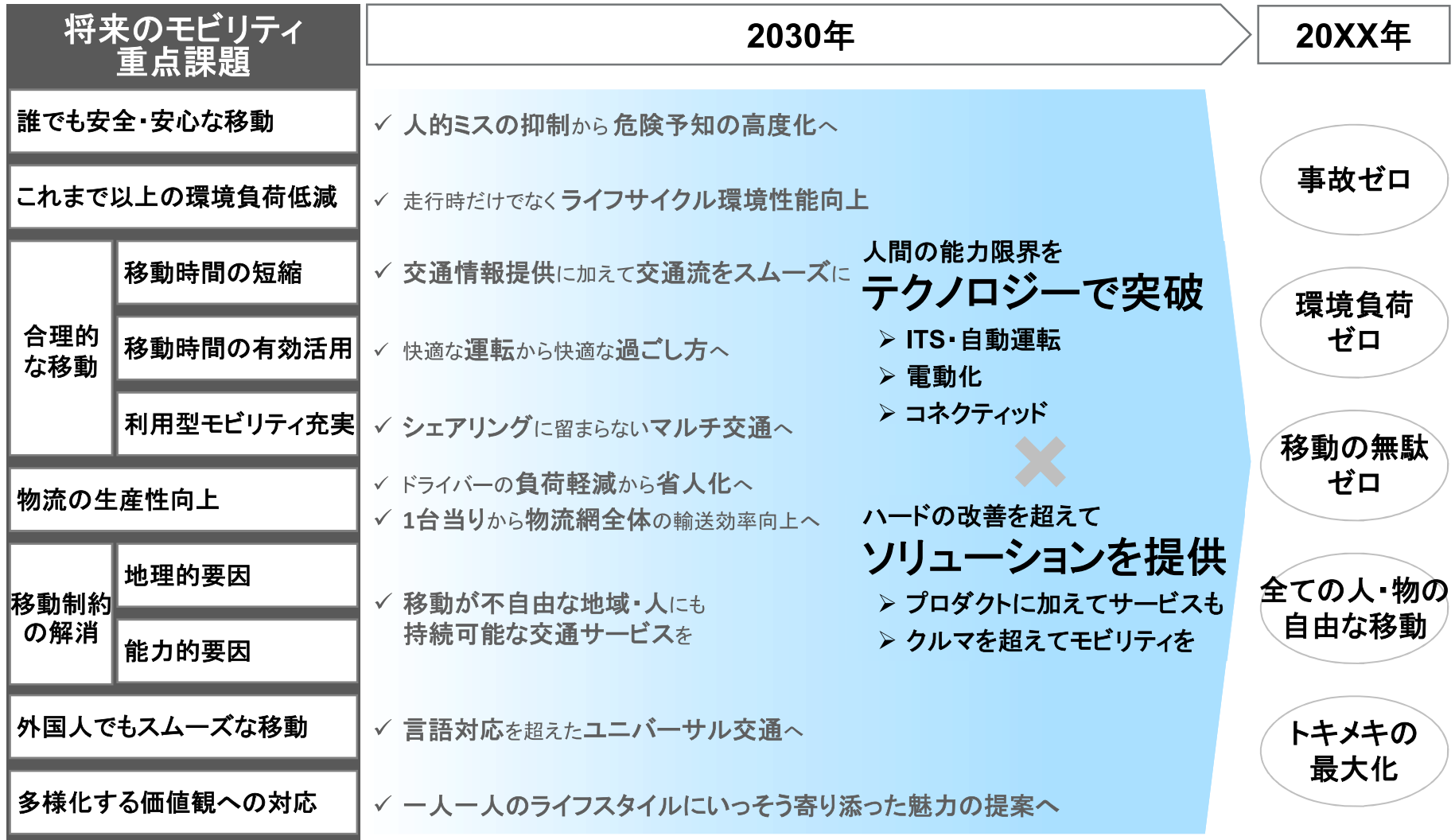
将来のモビリティ重点課題

社会と国土・交通の変化が、将来のモビリティ課題を方向付ける



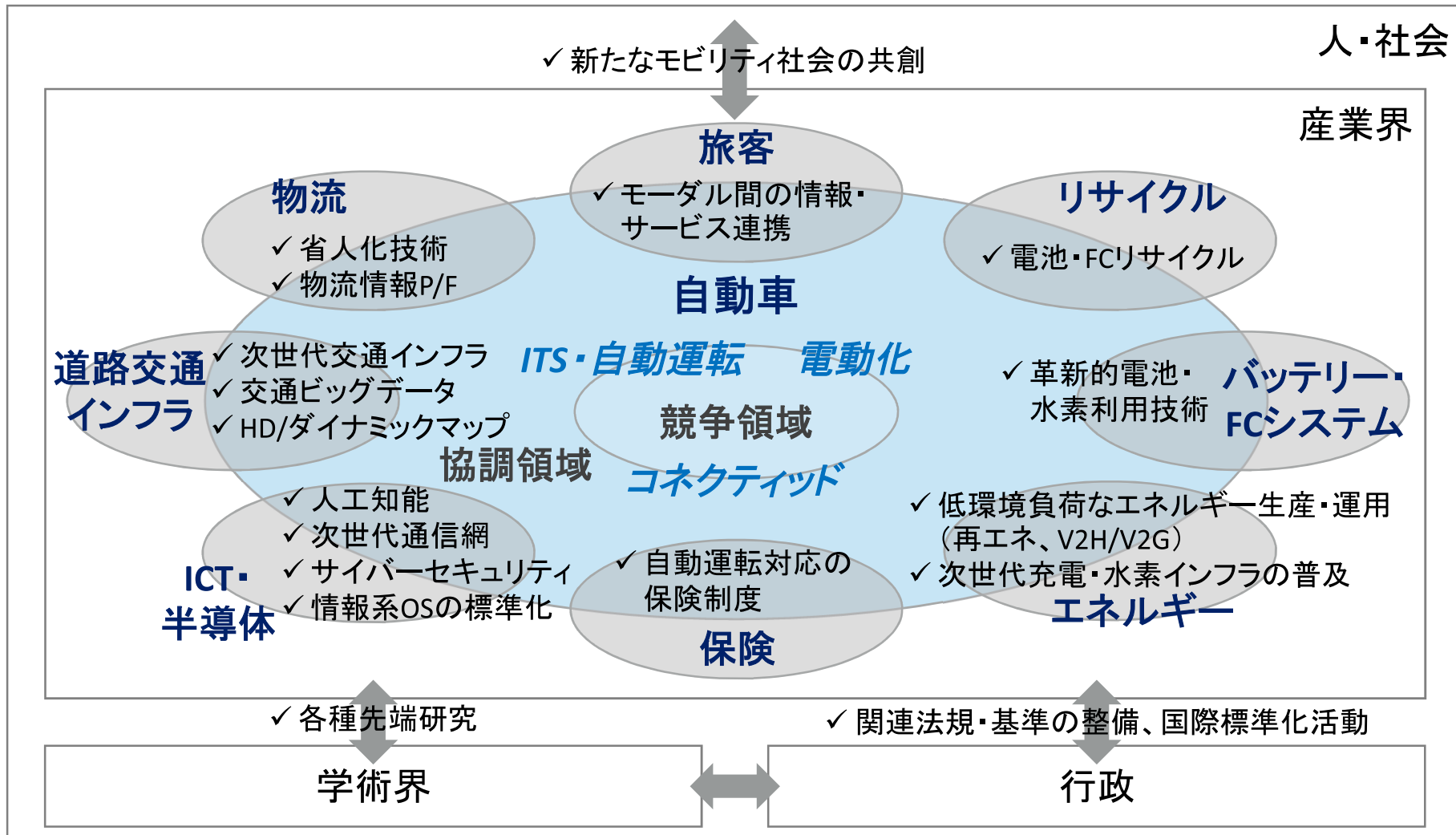
2030年のモビリティの方向性

2030年をマイルストーンに、「感動」に繋がる取組みに挑戦し続ける



2030年のモビリティ実現に向けたエコシステムの形成

業界内外の協調的取組みを拡大し、モビリティの未来を引き寄せる



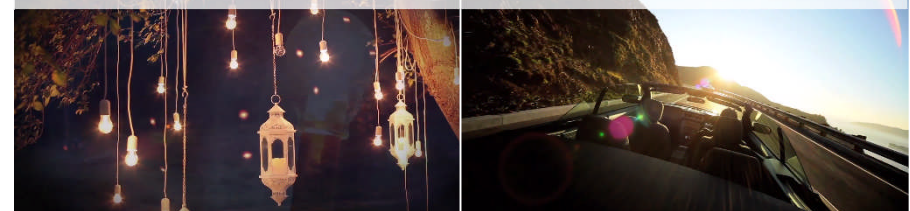
2020年オリパラのレガシー

2020年には、将来モビリティ実現の足掛かりとなるレガシーを遺す



2030年のモビリティ社会イメージ

2030年には、飛躍的に進化したモビリティ社会を実現する



我々は業界の枠を超え、 世界の人々の暮らしに「感動」をもたらす モビリティの未来に挑戦し続けます

- 安全・環境の取組みに引き続き邁進しつつ、モビリティを通じた更なる「感動」創造に取り組む
- 課題先進国として、その解決に向けたソリューションの創造・展開で世界をリードする
- 多様なステークホルダーと手を取り合い、豊かなモビリティ社会に向けた取組みを推進する